

希学園 第402回 小4公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第402回公開テスト 小4国語 解説動画(2025年11月9日実施)	https://vimeo.com/1134860664/64a45f319e

1

1 神社

2 悲しい

3 車庫

4 筆箱

5 県

6 羊

2

1 I X
味の变化
Y
料理の味

(1 I 完答)

1 II
スープ作り
2 ウ

3 A
エ
B
カ
C
オ
D
ア
4
(記述題)

(5 完答)

5
④ ア
⑤ エ
6 イ
7 おいしかつ

8
「シ
9 イ

3

1
I
栄
Ⅱ
さ
Ⅱ
乾
Ⅱ
さ
2 A
ば
B
た

(1 完答)

2 C
ば
3
四
4
サボテンを食

5
強い日
6
I
トゲ
Ⅱ
細かな影

(6 完答)

7
そのため、
こ
8
ウ
9 I
2
Ⅱ
2

2

4
たったひとつまみ、塩を多くした
(同意可)

配点

1・2・3・3 各2点×13=26点
2 4 6点
その他 各4点×17=68点
〈計〉100点

1

1 神社には御神体が、お寺には仏像がまつられている。

2 したところをわすれて、「悲」を「非」としないように。

3 「庫」の部首は「まだれ」である。「原」の部首は「がんだれ」である。はっきり区別しておぼえよう。

4 「筆」「箱」のたけかんむりは続け字のように書かないように気をつけよう。

5 「県」の「目」を「日」にしないように注意しよう。

6 「羊」と「半」を混同しないように。はっきり区別しておぼえよう。

2

「ぼくのシェフ」 長谷川まりる ※問題作成の都合上、一部表記を変更しています。

1 Iについては「シャルルではわからない」「に気がつく」といった（X）の前後が手がかりになるだろう。（X）にはいることが見つかれば、その七行後に「アズレのいったとおりになると、おどろくほど味がよくなつて」とあることから、（Y）には「味」に関することがはいると見当がつけられる。あとは「四字」という指定に合うように答えよう。IIは、「シャルルはどうだとスープ作りをぬけ、アズレの家まで走っていきけるようになった」とあることから「スープ作り」に決まるだろう。

2 「ぼくはまだ子どもだから」と自分で言っていることや②のあとの「帰る時間になつたら」のような声かけをしているということから、シャルルはまだまだ子どもだということがわかる。そんな子どもがこの直前で述べているようなことを伝えれば、大人はどう感じるか考えよう。

3 「目がかがやかせる」は「喜びや期待などで興奮している」こと。「口を出す」は「他人の会話や発言に割りこんで、自分の言いたいことを言う」こと。「鼻をならす」はここでは「鼻にかかった声を出して、不満を表す」こと。ほかにも「鼻にかかった甘え声を出す」という意味もある。「手づかみ」は「直接手でつかむ」こと。

4 シャールに「じゃ、勝手にしろよ」と言われたあと、アズレが何をしたことか「いままで食べたナツメのスクエズのどれよりも」「おいしかった」のかを考えよう。「だけ」とあることから、そこまでたいしたことをしたわけではないことが想像される。

5 「なんでも計量計量、つねにきっちり分量どおりだ」、「その日の気分分でいくらでもアレレンジできる。味見をしながら、さらに高みを目指すんだ」から答えを決められる。「アレレンジ」ということばの意味がわからなかったとしても、「味見を」以降に注目できればまよわなかっただろう。

6 「（心は）ちこんでしまった」「あいまいに笑うしかできなかった」という表現から、マイナスの気持ちがいメージできるだろう。アはアズレの存在がばれるかという心配のせいでマイナスな気持ちになつていくわけではないので不適。ばれないようにするためにアズレの話はしていない。エは真実を打ち明けるかどうかやんでいるわけではないので不適。アズレの話をしていないので、真実を打ち明けるつもりはないだろう。

7 「ひと口かじった」とあるのだから、「おまえも、食べれば」「うーん。じゃ、ひと口」よりあとにはいるはずである。あとは流れが不自然にとんでしまっているところがないか、注意して確認していこう。

8 「シャルル」からあとは、場面が「アズレの家」から自分の家の「カウンター」に変わり、「アズレ」が直接登場せずシャルルの父親が登場している。

9 アズレが塩をもうひとつまみ入れたナツメのスクエズを食べたシャルルが「おいしかった。いままで食べたナツメのスクエズのどれよりも」と思い、ポリンが「おいしい！」といっていることから、二人はおいしさを感じることができているとわかる。また、「料理の味がかわった」ことを「将来が楽しみ」とシャルルの父親がほめるということは、料理がおいしくなつたと感じているということだろう。アズレが「（塩を）もうひとつまみ多くしたほうが、まじになるんじゃない」といったり、ポリンが「あつというまにたいらげる」「いままで食べたナツメのスクエズのどれよりも」おいしいスクエズを「ひと口」しかかじらず、ポリンに「やってしま」ったりするのは、生まれつき「食死病」にかかっているからだと考えることができよう。

3

「サボテンは世界をつくり出す」 堀部貴紀 ※問題作成の都合上、一部表記を変更しています。

1 線①の直後の「特に」からはじまる一文で「サボテンが人々の生活に取り入れられ」と説明されている。

2 「こぼむ」は「いやだと強く断る」こと。「さまたげる」は「邪魔をする」こと。「はばむ」は「他のものの動きを抑えて邪魔をする」こと。

3 次の段落が「第一に」ではじまっているので、並列の構造になつていくだろうと予測しながら読み進めていく。「第一に、サボテンがトゲをもつ理由は」「次に挙げられるトゲの役割は」「また、トゲには、『体温調節』の役割も」「中には、『繁殖』にトゲを利用するサボテンも」の四つである。形式段落ごとの話題をおさえながら読むことも大切である。

4 「ここより前の部分から」さがすということは、この場合、この段落の話題をふまえて考えるということである。この段落の「動物たち」は「乾燥地」で生きていることをまずはおさえたい。「あつという間に動物たちに食べ尽くされてしまふ」のは、サボテンが乾燥地における動物の生存にとって「水分補給源」「食料」という非常に大切な役割をもっているからである。

5 トゲの役割の二つめについて説明している④の段落からさがそう。④の四行後に「④から身を守る」と同意表現である「過剰な光によるダメージから身を守る」とあるので、④には「過剰な光」を言いかえたことばがはいる。なお、この問いには記号は字数に数えないという指定があるので、記号をふくんだ箇所を答えないようにしよう。

6 線⑤の指示語は直前の一文の「トゲがあればその（IIサボテンの）表面に細かな影ができること」をさしている。

7 トゲの役割の四つめについて説明している線⑥の段落からさがそう。この段落を読み進めていくと、動物の体にサボテンのトゲが刺さり、そのまま体にくっついて新たな場所に移動するということがわかる。

8 「サボテンはトゲを巧みに利用している。しかし、人間にとっては⑦となることも多い」という形になつていくことや、この直後に書かれている内容から、トゲが人間にとってマイナスをもたらしているということが読み取れる。

9 I 三つめの役割として「熱の移動を抑える働き」が書かれているが、これは「茎節」ではなく「トゲ」の役割である。

II 一つめの役割が書かれている段落で「トゲの長さ」にふれているが、「食害」を受けやすいかどうかにかかわるというだけで、「役割」の「決定」にかかわるという話ではない。

以上